

# 男子シングルス

Men's Singles

# 強者集結!

オリンピック経験者から次代のホープまで、男子シングルスは各年代の実力者が揃った。日本一を目指して伝統の一戦の火蓋が切られる。



桃田賢斗

(NTT 東日本)



丸 杉



全日本  
A代表

## 西本拳太

(ジェイテクト)



全日本  
A代表

## 常山幹太

(トナミ運輸)

**バ**ドミントン日本一を決める、全日本総合バドミントン選手権大会。76回目を迎える今大会だが、昨年は国際大会の日程とコロナ禍による隔離期間が重なり、ほとんどのトップ選手が出場出来なかった。しかし、今年はフルメンバーの参加が見込まれており、名実ともに日本一を決定する大一番。白熱の戦いが繰り広げられるだろう。

### しのぎを削る‘3強’

男子シングルスでは、元世界ランキング1位の桃田賢斗（NTT東日本）と、東京五輪16強の常山幹太（トナミ運輸）、そして9月のダイハツ・ヨネックスジャパンオープンで初優勝を果たした西本拳

太（ジェイテクト）の3選手が優勝争いの中心となりそうだ。

桃田は2022年こそ国際大会での優勝はないが、19年にはギネス記録となる国際大会11勝を達成するなど、その実績と経験は揺るぎない。相手のエースショットを防ぐ鉄壁のレシーブからラリーを組み立て、チャンスで仕留めるプレーは必見だ。今大会で5度目の優勝を

果たして、世界で再浮上するきっかけを掴みたい。

桃田とともに東京五輪に出場した常山は、粘り強いラリーと素早いフットワークが持ち味。日本A代表として、国際大会で活躍し始めて長い間、意外にも全日本総合での優勝経験はまだない。日本一のタイトルを獲得して、23年から始まるパリ五輪の代表選考レースに弾みをつ

※原稿中の世界ランキングは11月29日時点



**渡邊航貴**  
(BIPROGY)



**奈良岡功大**  
(IMG)



**田中湧士**  
(NTT 東日本)

けられるか。

そして西本は、先述の通り9月のダイハツ・ヨネックスジャパンオープンで、自身初となるワールドツアー優勝を果たしたことが記憶に新しい。ジェイテクトに移籍して心機一転を図った今年。粘りのあるプレーとスマッシュを軸とする攻撃的なショットを武器に、2016年以來となる2度目の優勝を果たしたい。

### 実力ある若手が 虎視眈々

これら3選手に対して待ったをかけたのが、奈良岡功大 (IMG) と渡邊航貴

(BIPROGY) の日本A代表や若手選手たちだ。

現在、世界ランキング14位と、日本人選手2番手まで台頭してきた奈良岡は、22年だけでも4度、国際大会で決勝の舞

台を踏むなど、コンスタントに上位の成績を残し始めた成長株だ。昨年の総合では準優勝を果たしており、今大会ではもちろん優勝が目標となる。

また、他を圧倒するスピードを武器と



## 大林拓真

(トナミ運輸)



## 古賀 穂

(NTT 東日本)



## 小本翔太

(日立情報通信エンジニアリング)



## 秦野 陸

(トナミ運輸)

する渡邊も優勝候補の一人。昨年は全日本総合には出場せず、世界選手権などの大舞台で経験を積んで、自身のプレーに磨きをかけてきた。そうした経験を生かして、優勝争いに食い込んでいけるか。

その他、上位進出が見込まれるのが田中湧士（NTT東日本）。A代表不在とはいえ、昨年の優勝によって自信をつけた社会人1年目の選手が、今大会でも台風

の目になる可能性は十分にある。また、昨年はその田中に準々決勝で敗れてベスト8に終わった古賀穂（NTT東日本）も、虎視眈々と優勝を狙う一人だ。20年には準決勝進出を果たしており、まずは今年、決勝の舞台を踏みたい。

注目選手として他には、9月の全日本社会人で決勝を争った大林拓真と秦野陸（ともにトナミ運輸）や、日本ランキ

ングサーキットで奈良岡と決勝で戦った小本翔太（日立情報エンジニアリング）、日本B代表の高橋洸士（トナミ運輸）などの活躍に期待。学生では、10月の全日本学生選手権で優勝した宮下怜（明治大）と、インターハイを制した齋藤駿（ふたば未来学園高）といった、次代を担う選手たちがどういう戦いを披露するかに注目が集まりそうだ。

## 男子シングルス 出場選手一覧

## ■本戦出場選手

※日本ランキング 6月10日発表時

氏名	都道府県	所属	ランキング・成績
桃田 賢斗	東京都	NTT東日本	日本ランキング1位
常山 幹太	富山県	トナミ運輸	日本ランキング2位
奈良岡 功大	東京都	IMG	日本ランキング3位、前年度全日本総合選手権大会2位
西本 拳太	愛知県	ジェイテクト	日本ランキング4位
田中 湧士	東京都	NTT東日本	日本ランキング5位、前年度全日本総合選手権大会1位、全日本社会人選手権大会3位
古賀 穂	東京都	NTT東日本	日本ランキング6位、前年度全日本総合選手権大会5位
小本 翔太	神奈川県	日立情報通信エンジニアリング	日本ランキング7位、前年度全日本総合選手権大会5位、全日本社会人選手権大会5位
小野寺 裕介	東京都	BIPROGY	日本ランキング9位、前年度全日本総合選手権大会5位
大林 拓真	富山県	トナミ運輸	日本ランキング10位、全日本社会人選手権大会1位
高橋 洸士	富山県	トナミ運輸	日本ランキング12位、前年度全日本総合選手権大会3位
五十嵐 優	東京都	BIPROGY	日本ランキング13位、全日本社会人選手権大会5位
嶺岸 洸	神奈川県	日立情報通信エンジニアリング	日本ランキング15位、全日本社会人選手権大会3位
竹内 宏気	岐阜県	丸杉	前年度全日本総合選手権大会5位
秦野 陸	富山県	トナミ運輸	全日本社会人選手権大会2位
猪熊 心太郎	香川県	WAM ATHLETE	全日本社会人選手権大会5位
川本 拓真	東京都	BIPROGY	全日本社会人選手権大会5位
内藤 浩司	神奈川県	藤沢翔陵高等学校教職員	全日本教職員選手権大会1位
成田 達彦	青森県	青森山田高等学校教職員	全日本教職員選手権大会2位
宮下 怜	東京都	明治大学	全日本学生選手権大会1位
野田 統馬	神奈川県	日本体育大学	全日本学生選手権大会2位
阿部 大輔	東京都	日本大学	全日本学生選手権大会3位
中山 裕貴	新潟県	敬和学園大学	全日本学生選手権大会3位
齋藤 駿	福島県	ふたば未来学園高校	全国高等学校選手権大会1位
今越 健太	石川県	金沢市立工業高校	全国高等学校選手権大会2位
谷岡 大后	福島県	ふたば未来学園高校	全日本ジュニア選手権大会1位
沖本 優大	埼玉県	埼玉栄高校	全日本ジュニア選手権大会2位

## ■予選出場選手

氏名	都道府県	所属	ランキング・成績
渡邊 航貴	東京都	BIPROGY	日本ランキング11位、全日本社会人選手権大会9位
坂井 一将	石川県	金沢学院クラブ	日本ランキング13位、全日本社会人選手権大会9位
内野 陽太	石川県	金沢学院大学	日本ランキング16位
牧野 桂大	神奈川県	日立情報通信エンジニアリング	全日本社会人選手権大会9位
藤原 圭祐	愛知県	ジェイテクト	全日本社会人選手権大会9位
村本 竜馬	愛知県	ジェイテクト	全日本社会人選手権大会9位
藤井 湧也	山口県	UBE	全日本社会人選手権大会9位
小野寺 達彦	東京都	淑徳巣鴨中学高等学校教職員	全日本教職員選手権大会3位
原口 拓巳	福岡県	自由が丘高等学校教職員	全日本教職員選手権大会3位
永淵 雄大	茨城県	筑波大学	全日本学生選手権大会5位
小川 翔悟	東京都	法政大学	全日本学生選手権大会5位
小川 航汰	東京都	日本大学	全日本学生選手権大会5位
一井 亮太	東京都	法政大学	全日本学生選手権大会5位
藤原 睦月	埼玉県	埼玉栄高校	全国高等学校選手権大会3位
岩野 滉也	福島県	ふたば未来学園高校	全国高等学校選手権大会3位
中川 友那	埼玉県	埼玉栄高校	全日本ジュニア選手権大会3位
上元 瑛汰	岡山県	水島工業高校	全日本ジュニア選手権大会3位
川野 寿真	福島県	ふたば未来学園中学校	全国中学校大会1位

氏名	都道府県	所属	各地区推薦及び日本バドミントン協会推薦
古川 晃大	北海道	北翔大学	北海道地区
澁谷 勇希	宮城県	東北マークス	東北地区
武井 凜生	東京都	NTT東日本	関東地区
山田 修平	長野県	長野商業高校	北信越地区
田中 佑貴	愛知県	ジェイテクト	東海地区
川畑 史吹	大阪府	東大阪大学柏原高校	近畿地区
桐田 和樹	山口県	UBE	中国地区
中川 正麻	愛媛県	四国ガス	四国地区
櫻井 煌介	長崎県	瓊浦高校	九州地区